

校内研修計画

山梨市立三富小学校

1. 学校課題

(1) 地域の実態

本校は、山々に囲まれた自然豊かな地にある。国道が走る中、その国道沿いに縦長に学区が広がり、子どもたちの多くはスクールバスで登下校をしている。少人数のため、逆に学年を離れた中での子どもたちのふれあいも多い。多くの子どもたちが住んでいる興南や雷の住宅では、帰宅するとすぐ子どもたちが集まり、みんなで運動をしたり自転車に乗ったりして遊んでいる姿も見られる。しかし地域差もあり、家と家とが離れているため、帰宅後は遊ぶ相手がいないという実情もある。こうした環境の中で生活する本校児童は36人（平成27年4月現在）である。

(2) 児童の実態

本校の児童には、基礎的・基本的な知識・技能の習得や理解に個人差・意欲差が大きいこと、困難な課題に対してすぐにあきらめてしまう傾向が大きいこと、考える力・自主性・表現力の育成が課題であることがあげられる。

昨年度の研究の反省を受けて、引き続き算数科において基礎・基本の定着を図ることに重点をおき、既習事項を活用して課題解決をする場면을意図的に織り込んだ授業を実施していく中で、知識や技能を活用できる力を育てていくと共に、課題に対して、粘り強く取り組む態度を育てていくことが大切であると考ええる。

2. 研究主題

『楽しい学校(楽校)の創造をめざして』

～算数科において基礎基本の定着を図り、活用する力を身に付けた児童の育成をめざす～

3. 主題設定の理由

本校では、「楽しい学校(楽校)の創造」を基本目標とし、以下を学校教育目標に掲げている。

| | |
|----------------|--------------------|
| 「楽しい学校(楽校)の創造」 | |
| 一 | かしこく やさしく すこやかに |
| ■ | 進んで学ぶ みとみっ子(知育) |
| ■ | 思いやりのある みとみっ子(徳育) |
| ■ | じょうぶで元気な みとみっ子(体育) |

この目標は、どのような社会の変化にも対応できる「生きる力」をもった、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を図ろうとするものであり、教育活動のあらゆる場面を通して具現化していく必要がある。

「知育」とは、確かな学力を育み、楽しくわかる授業を創造することである。教材教具、指導方法を工夫し、基礎基本を身に付けさせることが大切となる。「徳育」は、道徳教育を要とした心の教育のことであり、教育諸活動の様々な場面で形成されていく。「体育」は、体力づくり運動の実践や健康・安全・食教育の充実によって図られる。これらの実践的・体験的活動は、本校教育課程全般の中に三富小学校の特色を生かしながら編成されている。

昨年度の研究では、算数科において、既習事項を活用して課題解決をする場면을意図的に織り込んだ授業を実践することができた。先進校の実践を参考にしながら、活用学習では、三段階思考法（「まず」「次に」「最後に」などの言葉を使用して思考したり、発表したりする場面）を仕組む授業を行うことができた。既習事項を活用して課題解決をする場面では、課題解決のヒントになるポイントを掲示することで、児童の解決の手助けとなり、自力解決に役立てることができた。三段階思考法は、順序立てて考えることや説明の順序立てが身に付き、有効であることが分かった。学級力向上の取組では、学級力アンケートを行い、学級集団に対する児童の思いを把握し、学級指導に役立てることができた。この取組を通して、児童が自分自身や学級を見つめるよい機会になった。

本年度の研究は、昨年度の研究の成果を生かしながら、引き続き児童の確かな学力の定着と向上を軸に進めていく。基礎的・基本的な知識や技能を活用できる力を育てる中で、児童に課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育成することをめざす。前年の授業改善を基に、基礎・基本の定着を図ることに重点をおきつつ、授業の中に思考する場面や表現する場면을可能な限り仕組んでいく。この取り組みを積み重ねることで、児童に活用する力が育まれると考える。しかし、活用学習を行うにあたり、計算力、既習事項の定着の個人差が大きいことが影響を及ぼしている。一人一人の課題を明確にし、その課題を克服する手立てを講じ、基礎基本の定着を図っていく。そのためには、家庭学習の取組が重要なポイントになるが、家庭学習の質の向上、定着ができていない児童についての手立てを全体で考えていく。保護者の理解と協力を得ながら、家庭学習の継続を図っていききたい。また、主体的に学習に取り組む態度を養うことで、確かな学力の定着・向上へつなげることができ、学校教育目標の具現化に迫っていくことができると考えた。

以上のような理由から、本校の研究主題と副主題を設定した。

4. 研究の具体的内容与方法

(1) 授業実践 一人一実践

先進校の研究を参考にし、算数科において、各学年、身に付けた知識・技能を活用していくことを重視した授業を実践する。授業公開を行い、なるべく全員が参観し、相互の授業改善の機会とする。

(2) 児童の実態の把握・学級力づくり

CRT・学力診断テストなどの結果や学級力向上プロジェクトの取り組み、Q-Uなどを活用しての実態把握により、児童の現状の課題を的確につかみ、学級集団づくりに生かしていく。

(3) 学習規律・習慣の確立

家庭と連携しながら、「三富小学校の学習のきまり」の中の〔基本的な学習習慣〕〔基本的な学習用具〕の習慣化、家庭学習の定着を目指して、各学年の発達段階に応じた取り組みを進めていく。家庭学習の質の向上、定着ができていない児童についての手立てを全体で考え、取り組んでいく。

年間研修計画

研究主任 加々美 教子

| 回 | 月日(曜) | 内 容 | 提案 | TC 要請 |
|----|-------------|---|------------------------|-------|
| 1 | 4 / 8 (水) | 今年度の校内研究の方向性の決定 研究主題の設定, 研究計画の概要 研究計画の具体, 研究組織・研究計画の検討 | 研究主任 | |
| 2 | 4 / 13 (水) | 研究主題の設定, 研究計画の概要 研究計画の具体, 研究組織・研究計画の決定 | 研究主任 | |
| 3 | 4 / 22 (水) | 第1回 学校統合作業部会 統合スケジュール, 学校間交流事業について | | |
| 4 | 5 / 13 (水) | 教育環境づくりの取組について | 研究主任 | |
| 5 | 5 / 27 (水) | 第2回 学校統合作業部会 | | |
| 6 | 6 / 10 (水) | 一人一実践授業研究会① 第2学年 加々美 | 授業者 | |
| 7 | 6 / 24 (水) | 一人一実践授業研究会② 第4学年 野尻 | 授業者 | |
| 8 | 7 / 1 (水) | 一人一実践授業研究会③ 第6学年 藤波 | 授業者 | |
| 9 | 7 / 8 (水) | 第3回 学校統合作業部会 | | |
| 10 | 7 / 15 (水) | 学級力向上プロジェクトの取組について・情報交換 | 授業者 | |
| 11 | 8 / 17 (水) | 学習会 (Q-U 活用の学級経営) 授業改善プラン一校一実践・一人一実践について, 教育課程還流報告, 各種研修会報告 | 講師 研究主任 各種研修会参加者 | |
| 12 | 9 / 2 (水) | 第4回 学校統合作業部会 | | |
| 13 | 10 / 7 (水) | 学力学習状況調査の結果について 本校の学力向上の取組について | 管理職 研究主任 | |
| 14 | 10 / 14 (水) | 第5回 学校統合作業部会 | | |
| 15 | 10 / 21 (水) | 一人一実践授業研究会④ 第5学年 堀内 | 授業者 | |
| 16 | 11 / 18 (水) | 一人一実践授業研究会⑤ 特別支援学級 古屋 | 授業者 | |
| 17 | 12 / 2 (水) | 一人一実践授業研究会⑥ 第1学年 平塚 学級力向上プロジェクトの取組について・情報交換 | 授業者 | |
| 18 | 12 / 9 (水) | 第6回 学校統合作業部会 | | |
| 19 | 1 / 27 (水) | 山梨市学力向上の取組について 学級力向上プロジェクトの取組について・情報交換 | 教務主任 研究主任 | |
| 20 | 2 / 17 (水) | 研究の成果と課題, 次年度の方向性について 研究のまとめに向けて | 研究主任 | |
| 21 | 3 / 2 (水) | 第7回 学校統合作業部会 | | |
| 22 | 3 / 9 (水) | 研究集録作成作業 | 全教職員 | |

